

内航船の日

「海から届ける写真展」開催中 内航海運のPRに貢献

内航海運新聞(令和5年7月24日号)での記事を紹介いたします。以下転載

内航船の日

「海から届ける写真展」開催中 内航海運のPRに貢献



既報のとおり、今年で8年目を迎える7月15日の「内航船の日」を記念したPRイベント「海から届ける写真展」が、全日本内航船員の会の主催により東京スカイツリーのふもとにある下町の銭湯「大黒湯」のロビーで開催中だ。会場には、内航船員から寄せられた写真作品が内航海運業界のPRに大きく貢献している。

「内航船の日」とは、内航船が好きで、船員たちと交流してきた陸上の一般市民が、「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」であることから、7月15日を「内航船の日」にしようと呼びかけ、2015年に日本記念日協会によって認定されたもの。今年も記念日当日には、SNS上で「#内航船の日」が溢れ、内航船やそこに乗り込む船員たちを盛り上げた。

6回目となる「海から届ける写真展」では、全国で働く現役の内航船員から寄せられた約300点の写真の中から厳選された18点を展示。船上からしか見ることのできない景色はもちろん、大自然が描き出すアートなものなど、船の上で働く船員の息遣いが感じられるような作品ばかり。また、一般の人々が「内航船の1年」をイメージできるパネルなども展示している。

会場は地元住民に愛される下町の銭湯「大黒湯」。内航海運と特別に縁が深いというわけではない。全日本内航船員の会の松見準事務局長は、「内航船員が撮影した作品

を見て、内航船や船員を知らない人にも船員がどのような気持ちで船を動かしているかを知ってもらい、より身近な存在として感じてもらえればうれしい」と語る。

コロナ禍の期間を除けば毎年開催している写真展だが、同展で内航船や内航船員を初めて知るといふ人が後を絶たない。「内航海運は、ただでさえ人の目に触れることのない産業。持続可能な産業としてさらに発展していくためにも、業界全体でもっと社会に広く発信していく必要がある」（松見事務局長）。

7月15日の「内航船の日」や「海から届ける写真展」は、一般の人々が内航船という言葉に触れ、そこで働く内航船員とつながるきっかけであり、入り口だ。こうしたPR活動は、深刻な船員不足問題を抱える内航海運業界にとって、今後ますます重要性を増してくるだろう。

同展の開催は7月31日まで（火曜日定休）。「大黒湯」の所在地は東京都墨田区横川3-12-14。東京メトロ半蔵門線、東武伊勢崎線、都営浅草線、京成押上線「押上駅B2出口」より徒歩6分。東京スカイツリーより徒歩10分。入浴料は大人520円、中学生400円、小学生200円、幼児100円。

